

ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒毒性	使用時期(回数)	使用回数	白さ病	根こぶ病	炭疽病	白斑病	立枯病	菌核病	リゾクトニア病	アブラムシ類	アザミウマ類	ハモグリバエ類	コナガタノメイガ	ハイマダラノメイガ	ヨトウムシ類	ハスモンヨトウ	アオムシ類	ネキリムシ類	キスジノミハムシ	ダイコンハムシ	ヤサイゾウムシ	ケセンチュウ	ネコブセンチュウ
タチガレン液	32	*a	1						◎																
ベンレート水◎	1		14	1		◎	◎																		
アミスター20FL	11		7	2	◎																				
フロンサイド粉	29	*c	1		◎																				
ロブラール水	2		45	2						◎															
リゾレックス水	14	*a	1							◎															
ダコニール1000FL	M5	*a	1						◎																
ユニフォーム粒	4・11	*e	1	◎																					
スピノエース顆水	5		3	1								◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎							
ジェイエース溶	1B		21	1								◎													
ダイアジノン粒5	1B	*a																							◎
		*b	1																◎	◎					
		*d																	◎						
アディオオン乳	3A		1	3								◎						◎				◎	◎		
アドマイヤーFL	4A	劇	3	2								◎													
ダントツ溶	4A		7	3								◎													
ダントツ粒	4A	*a	1									◎													
ブレオFL	UN		1	2										◎			◎								
アファームエクセラ顆水	6・15		3	3										◎											

㊟：チオファネートメチル含有剤 ㊤：ペノミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での㊤は使用しないこと。その逆も同様（種子への処理および塗布処理を除く、詳細はP. 856参照）。

*a:播種時 *b:播種時又は定植時 *c:播種前 *d:出芽時 *e:播種前又は定植前

ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
立枯病	播種時	1. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。 ガスタード微粒剤 30kg/10 a 2. 次の薬剤を1㎡あたり3 L 土壌灌注する。 ダコニール1000 (FL) 1000倍	本病はピシウム菌による。
白さび病	播種前または定植前	・ 次の薬剤を全面土壌混和する。 ユニフォーム粒剤 9 kg/10 a	露地栽培で発生する。 5～7月と10～12月の雨期に発生が多い。 *非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ピシロックフロアブル* 1000倍 ランマンフロアブル* 2000倍	
	収穫後	・ 収穫後の残渣はていねいにとり除き、畑にすきこまない。	
炭疽病	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 発病株はただちに除く。 3. 発病畑周辺の除草を行う。 4. 発生が認められたら次の薬剤を散布する。 ベンレート水和剤 4000倍	露地栽培で発生する。6～10月に雨が続きと多発する。潜伏期間は3～4日でまん延が早い。圃場衛生等、予防に重点をおく。
根こぶ病	播種前または定植前	1. 高畝にする等、圃場、苗床の排水を良好にする。 2. 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 3. 播種前に次の薬剤を処理する。 フロンサイド粉剤 全面土壌混和 30kg/10 a	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。 夏から秋にかけて、高温多湿の年、夏まきに多発する。
	生育期	・ 発病株は根、特にこぶを圃場に残さないように早めに処分する。また収穫後、残さはいねいに処分し、畑にすきこまない。	
黒腐病	生育期	1. 雨よけ栽培すると被害は少なくなる。 2. 発病前から次の薬剤を予防的に散布する。 Zボルドー(水)* 500倍	6～7月の梅雨期と9月の秋雨期に発生が多く、収穫間近に急にまん延する。 *野菜類での登録

ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アブラムシ類	播種時	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを播溝土壌混和する。 アルバリン粒剤* 6kg/10a スタークル粒剤* 6kg/10a	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アディオン乳剤 2000～3000倍 アドマイヤーフロアブル 4000倍 ウララDF* 4000倍 ジェイエース水溶剤 1500倍 モスピラン顆粒水溶剤* 4000倍	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
ハモグリバエ類	播種時	・パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に1mm以下の目合いの防虫網を設置する。	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤* 1000～2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍	
コナガ	播種時 生育期	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 広範な地域で設置可能であればコナガコンプラス◇のいずれかの剤を、作物の上に設置する。 ツインチューブ製剤 100～120本/10a ローブ状製剤 20～40m/10a 3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF*1 1000～2000倍 コテツフロアブル*2 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 プレバソンフロアブル5 *2 2000倍	◇成虫の交尾阻害が目的。使用にあたっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。オオタバコガ・ヨトウムシに対する登録も持つ。 *1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録

ミズナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
アオムシ	播種時 生育期	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF*1 1000～2000倍 アフーム乳剤*2 1000～2000倍	*1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録
ヨトウムシ	播種時 生育期	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第捕殺する。 ・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT*1 1000倍 エスマルクDF*1 1000倍 アフーム乳剤*2 1000～2000倍	5～6月と9～10月の2回発生する。 *1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 チューンアップ顆粒水和剤*1 2000～3000倍 アフーム乳剤*2 1000～2000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向がある。 生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録
キスジノ ミハムシ	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アルバリン顆粒水溶剤* 2000倍 スタークル顆粒水溶剤* 2000倍	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
ダイコン ハムシ	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 アディオン乳剤 2000～3000倍	
その他の病害虫		リゾクトニアによるしり腐症、カブラハバチ、クローバーハダニ	